

# 西田裕紀の あの農場はこうして 採用に成功した

## 第7回



(株)Life Lab  
(ライフラボ)

西田 裕紀  
Hironori Nishida

1978年愛知県生まれ。2005年に会社を設立し、翌年農業法人を中心とする一次産業の求人サイト「第一次産業ネット」をオープン。同サイトの会員（求職者）数は2万人。就職実績は年1000件を誇る。外国人技能実習生の受入れを担う、アジアアグリ協同組合代表理事も務める。http://www.life-lab.co.jp/

「新卒者採用」……。この言葉を聞いて、自分の農場とは関係ないと思われる農業経営者の方が多いのではないのでしょうか。しかし、最近の傾向として新卒者採用を行なっている生産農場が増加しています。新卒者採用が増加しているとはいえ、採用活動を開始したからといって、必ず採用が成功するとはいえません。逆に学生は大手志向が強くなり、他の企業と学生の奪い合いとなり、思うような採用実績を出せていない農場が多いのも現実です。そんな中、これまでうまく採用

## ▼ 新卒者を確保するには ▲

とはレアケースなのです。そこで新たな取り組みとして、新卒者向け専用の求人サイトを掲載し、他業界の一般企業と同じように、12月にエントリー募集を開始。春前にはエントリーを締め切り、選考をする流れに変更をしたところ、募集の数も十分に集まり経営者の理想通りの採用に成功しました。ここでのポイントは次の2点です。

1. 新卒者向け専用の募集ページの掲載
2. 他の企業と同じ募集時期

学生が就職活動をする際、通常は専用の新卒向けサイトや新卒向け求人が掲載されているサイトで情報収集をします。これまでのように、転職向けと同じページに掲載しても新卒者が見る可能性が低く、予定通りの応募数を確保できません。

は、企業による新卒者確保の早期化を防ぎ、各社足並みを揃えたい経団連の意向があります。私としては、企業側は年中募集して学生はいつでも応募できる態勢で良いと思います。が、大学生の就職活動はこの時期に集中してしまうのです。よって、他の企業と同じ時期にエントリーを開始することで、幅広い学生にとって応募しやすい状況となるのです。最後に、新卒者の採用については賛否が分かれるでしょう。最低限の社会経験がなければ不要という意見がありますが、仕事に対して固定概念のない新卒者は、自分の農場での働き方が当たり前となるので逆にいるという意見も聞きます。前号でお伝えしたように、管理者不足の農場も多く、より専門的な知識や素養の高い人材を求めている農場が増えている中で、農学部や農業大学などの学生は管理者候補になり得るといえるでしょう。農場の規模や体制、経営者の考え方次第で一長一短のある新卒者採用ですが、今後の採用活動において、検討する価値は十分にあるのではないのでしょうか。